

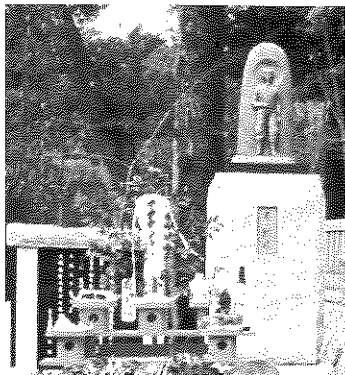
令和2年度茨城県特攻戦没者 慰霊祭に参加（支援）して

茨城偕行会 事務局長

佐々木克徳 陸自71

令和2年10月11日（日）茨城県護國神社において、令和2年度茨城県特攻戦没者慰霊祭が斎行され、茨城偕行会は、大高哲男会長（陸自66）以下15名の有志会員が、参列すると共に各種勤務員として行事の支援を行った。

本行事は、平成30年に茨城県護國神社に（公財）特攻隊戦没者慰霊顕彰会より奉納された「特攻勇士之像」の建立により開始されたもので、主催団体は、茨城県特攻戦没者慰霊顕彰会（幡谷定俊会長）である。



特攻勇士之像

「特攻勇士之像」奉納事業については、茨城偕行会に対して特攻隊戦没者慰霊顕彰会より協力依頼があり、弊会有志

会員が建設委員会事務局の主要メンバーとして活動を行い、多くの奉賛者のご協力を得て全国18番目の奉納にこぎつけたものである。

多くの奉賛者や会員の浄財とご支援ご協力により完成した「特攻勇士之像」を契機とする茨城県特攻戦没者慰霊祭は、弊会としても活動の原点であり、新たな事業の柱として支援を含めて積極的に取り組んでおり、今年度も広く会員並びに関係者に案内を行った。

今回の慰霊祭は、新型コロナウイルス感染症対応の観点から実施要領等を慎重に検討の結果、直会を中止し、待機場所や式場の配置、間隔等に行われる限りの配慮を行った。このため、10月3日の事前調整会議では、次第や配席の検討、受付から誘導案内等について、現役自衛官当時に彷彿とさせる綿密な打ち合わせ、役割分担を実施した。

慰霊祭当日は、昨年同様台風の影響が懸念されたが、英霊のご加護と担当者様の強い思いで台風を吹き飛ばし、爽やかな秋空の下、予定通りの開催となった。

凛々しく輝く「特攻勇士之像」の前に、主催者の幡谷定俊会長、来賓の特攻隊戦没者慰霊顕彰会石井光政事務局長、英霊にこたえる会茨城県本部小原大森会長、茨城県隊友会長島修照会長、航空自衛隊百里基地司令石村尚久空将

補、多くの地元国会議員等をはじめ、弊会会員、奉賛会会員、神社関係者等、約60名の参列者が案内され着席した。

11時00分、大田保重副会長（陸自71）の開式宣言により行事が開始された。

神事は、「修祓」「一拝」「降神の儀」「献饌」と続き、飯塚重宮司の「祝詞奏上」が静寂な式場に厳かに響き渡った。参列者による「玉串拝礼」の締めは、大高会長に合せて、茨城偕行会全員で拝礼を行い、「撤饌」「昇神の儀」「一拝」をもって整斉と終了した。

その場において、幡谷会長より昭和19年10月25日に行われた敷島隊の特攻に触れて、本慰霊祭の意義並びに参列者への御礼の挨拶が行われ、飯塚宮司より、当時の関係者が少なくなる中、特攻戦没者の想いを受け継ぎ、伝えることの大切さが語られた。

参列国会議員を代表して、岡田広参議院議員、田所嘉徳衆議院議員より、それぞれ特攻戦没者に対する慰霊と感謝の言葉が申し添えられた後、司会の閉式の辞をもって本年度の慰霊祭は、無事終了した。

茨城県特攻戦没者慰霊祭は、今後とも毎年10月の第2日曜日に斎行と予定されており、多くの参列者とお互いの健康と再会を約しながら、式場を後にした。

なお、本行事について読売新聞の取材があり、10月15日付の茨城版に、概要が掲載された。

本文記載以外の参加者は、次の通り。金澤孝一（陸自58）、山根峯治（陸自70）、河野廣行（陸自74）、坪沼浩（陸自01）、木村正己（陸自08）、荻沼蔵次（陸自准尉）、大川豊（陸事務官）、齋藤勝彦（陸事務官）、永井勇（賛助）、永井令夫人、老沼清一郎（賛助）、木村勝（賛助）

